

科目	心理アセスメント実習Ⅱ A	単位数	1
担当教員	栗村 昭子、櫻井 秀雄		
履修対象	心理科学科 3 年秋学期		
概要と目的	臨床場面でも特に重視される個別式知能検査や投映法について、体験学習と講義の二本立てで学ぶ。		
達成目標	<p>「知識・技能」</p> <p>(1) 個別式知能検査を部分的に施行することができる。</p> <p>(2) 知能集団式検査と個別式検査の違いを正しく理解する。</p> <p>(3) 集団式検査と個別式検査の違いを正しく理解する。</p> <p>(4) ロールシャッハテストのサイン化の意味を理解できるようになる。</p> <p>(5) 投映法と質問紙法の違いを正しく理解する。</p> <p>「思考力・判断力・表現力」</p> <p>(1) 代表的な知能検査の使い方がわかるようになる。</p> <p>(2) 投映法の基礎理論についてわかるようになる。</p> <p>(3) 知能検査、投映法の限界や倫理についてわかるようになる。</p> <p>「主体性・多様性・協調性」</p> <p>(1) 個別式検査を積極的に体験する。</p> <p>(2) 自分自身で心理検査の解釈を試みる。</p>		
授業計画			
1	投映法の基礎知識 (1) / イントロダクション (1~7回 担当: 栗村)		
2	投映法の基礎知識 (2) / ロールシャッハテストの基礎知識の獲得		
3	投映法の基礎知識 (3) / ロールシャッハ・テストのサイン化と解釈理論の獲得		
4	投映法の基礎知識 (4) / 描画テストの体験と基礎理論の獲得		
5	投映法の基礎知識 (5) / 描画テストの種類と解釈理論の獲得		
6	投映法の基礎知識 (6) / SCT の基礎理論の獲得		
7	投映法の基礎知識 (7) / SCT の解釈の獲得		
8	知的・発達のアセスメント実習 (1) / 知能検査の基礎知識の獲得 (8~14回 担当: 櫻井)		
9	知的・発達のアセスメント実習 (2) / 知能検査の施行法の獲得 (WISC)		
10	知的・発達のアセスメント実習 (3) / 知能検査の施行法の獲得 (WISC)		
11	知的・発達のアセスメント実習 (4) / 知能検査の施行法の獲得 (K-ABC)		
12	知的・発達のアセスメント実習 (5) / 発達検査の施行法の獲得 (新版 K 式発達検査 2001)		
13	知的・発達のアセスメント実習 (6) / 発達検査の施行法の獲得 (新版 K 式発達検査 2001)		
14	知的・発達のアセスメント実習 (7) / 知能指数の基礎理論と算出方法の獲得・知能検査のまとめ		
15	倫理とまとめ (平常試験) / 倫理についての知識の獲得 と平常試験 (担当: 栗村・櫻井)		
授業形態 / 具体的な内容	①講義 / ②講義、演習、ディスカッション		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
指定教科書なし			
参考書	心理アセスメントハンドブック 上里一郎 西村書店		
成績評価の基準・方法	<p>基準</p> <p>当該達成目標である「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」・「主体性・多様性・協調性」が達成できれば合格。</p> <p>方法</p> <p>授業態度、試験により、平常試験 (80%)、授業での発言および個別式検査実習時の主体性など授業への貢献度 (20%) として、それぞれ各担当者の評価を合計して総合評価とします。</p>		
留意点	臨床心理アセスメントⅠと同様、授業で使用心理テスト用紙を購入・持参して本講義に臨むこと。私語、大幅な遅刻は認めない。		
準備学習	事前に授業で扱うアセスメントについて参考図書などで準備学習をすること (1 時間程度)。また、授業後は授業で取り扱ったアセスメントについてノートなどにまとめて理解しておくこと (1 時間程度)。		
備考		No.	PY622006